

白川義員写真展 永遠の日本

Shirakawa Yoshikazu Exhibition
Eternal Japan

第1部 名山・名瀑

① 雌阿寒岳夕照

Mt. Meakan in the glow of dusk

北海道雌阿寒岳 1499m をほぼ真北から航空撮影した。上部噴煙の向こう側の山が阿寒富士 1477m。撮影は12月14日、午後4時少し前。最も日の短い季節のこのあたりは4時頃に日没を迎える。山や噴煙が黄からオレンジ色に色づくのは日没の20分前からで、撮影には絶好の時間となる。そのうち赤みが加わって赤いオレンジ色になる。日没直前、風景は赤く染まって一日が終わる。日没と同時に世界がグレーに暗転して死の世界になる。

② 雌阿寒岳静日

Mt. Meakan in the still of day

日本を代表する活火山は、雌阿寒岳と鹿児島の桜島だが、後者は噴火した際だけ噴煙を上げるから、當時休みなく煙を上げているのは日本で唯一この雌阿寒岳だけといえる。撮影したのは12月中旬である。冬季にこれ程噴煙が静かに天に向かって延びるのはめずらしい。私は50年昔と今回の『永遠の日本』で数十回この山を空撮したが、初めて見る風景であった。季節が真冬であったために、昼間でも太陽が低く斜光線ですばらしい眺めになった。

③ 雌阿寒岳火口赤変

Mt. Meakan crater bathed in red

落日寸前の最も赤くなった火口と噴煙をねらつたが、日本ではこのあたりが精一杯である。北海道でもスマッグが濃くて、外国で見るような真っ赤の風景を撮るのは無理のようである。昼間飛行機で上昇すると、地上千数百メートルあたりに水平線のような線がくっきり現われる。この下がスマッグで風景が濃いグレーに覆いで見える。朝日も夕日もこの層を通るから光も色もコントラストも弱くなつて、眼のさめるような写真にはならない。

④ 雌阿寒岳火口鳥瞰

Mt. Meakan crater from above

夏期は噴煙が少なく火口の中も丸見えである。それを真上から撮った。小さな火口湖が2個見えるが色に違いがあるのは火口湖の水の成分の違いであろう。この火口がポンマチネシリ(マチネシリとはアイヌ語で女の山の意)と名付けられている。上のオレンジ色の所が赤沼で、その周囲の陥没した部分が新火口。赤沼火口ともいわれる。下の青い水の周囲が旧火口と青沼、その左の噴煙が1996年噴火の後で96-2火口。まれに見る静寂の雌阿寒岳火口。

⑤ 十勝岳鳥瞰

Mt. Tokachi from above

十勝岳を上空から撮影した。周囲に噴煙を上げている火口や凹みになつただけの火口跡などが散乱したかのように散らばっていて、幾度とな

く噴火をくり返した様子がよく見てとれる。中央右上噴煙を上げているのが62-2火口、すぐ左下の凹が大正火口、画面中央左の大きな凹地がスリバチ火口、その左下が北向火口。画面上部一番高い三角山が境山1837m、その右下が十勝岳2077m。上空から撮影すると遠い山の方が高く写るのは仕方ない。

⑥ 知床連山赤変

Shiretoko Mountain Range bathed in red

右端が知床半島の最高峰羅臼岳 1661m、中央が三ッ峰 1509m、左端がサシリイ岳 1564mで夕方ほぼ真西方向から航空撮影した。白雪を被った山は朝夕長波長の光線を受けて赤く染まるが、その色は毎日強弱があつてさまざまな表情を見せる。日没直前の最も赤くなった一瞬がいいように思うが、実は太陽光が弱く間抜けた写真になる。これはオレンジ色から赤く変色する頃で、まだ太陽光が強くコントラストが充分な最大公約数の一瞬を撮った。

⑦ 剣岳黎明

Mt. Tsurugi at dawn

北アルプスの名峰剣岳 2999m である。今回雪山が日の出の太陽を受けて赤や黄色に輝く色彩の変幻を、アルプスやヒマラヤでなく日本の山でもある程度表情を見せることを、この剣岳を見てほしいと計画した。写真は日の出の30分前、東の地平線の空が赤く色づき始めた頃、空の反射を受けて山の東側の一部がわずかに変色したが、それは山頂の一部であり山全体はまだ眠り

の中にある。劇的な色彩絵巻が始まる前の緊張がせまってくる一瞬だ。

⑧ 剣岳黃変

Mt. Tsurugi bathed in yellow

日の出直後雪山は赤色になった後オレンジ色から黄色に変わると、写真はその赤色が完全に抜ける直前の黄変した剣岳だ。この時間にはコントラストも強くなる。その後この色彩も急激に失われて何の変哲もない薄黄になって終わる。画面左上は私が若い頃冬季4回剣岳を登山した際にたどった一服剣から前剣の登山ルート、その手前が源次郎尾根、陰の部分が長次郎谷、その手前の稜線が八ツ峰、右端が三ノ窓雪渓、上の小さい山が小窓の王。

⑨ 剣岳白景

Mt. Tsurugi cloaked in white

剣岳を後立山連峰の鹿島槍ヶ岳の稜線上空から望遠レンズで撮った。日の出直後の赤や黄色い山の写真は離れた場所から望遠レンズで撮るのは不利である。赤色などの長波長は遠くまで届くが、3000mの山中にまでスモッグが充満している日本では近くで撮るに限る。だが白い写真なら距離が遠くても影響は少ない。雪山を真昼間に撮ると青空の色が反射して山全体が青く写るから、白い山を白く撮るには、日の出後30分から1時間以内である。

⑩ 朝焼けた穂高三山

Morning glow on the three peaks of Mt. Hotaka
北アルプスで最も山らしい山は剣岳と奥穂高岳である。穂高は4山あって、奥穂高、北穂高、前穂高それに西穂高である。この写真にはそのうちの3山が写っている。正面が奥穂高岳3190m、左端が前穂高的頂上で3090m。その右、遠く朝光を受けて小さく光っているピークが西穂高岳2909mである。前穂高岳から右下に延びる山々は北尾根と呼ばれ、前穂高を1峰として右下のピークを2峰、3峰と数え、この写真には5峰まで写っている。

⑪ アルプス銀座

Alps Ginza

画面下が槍ヶ岳3180m、その右上に大喰3101mと中岳3084mがくっついて見える。その左南岳3084m。中央が北穂高岳3106m、その右方が涸沢岳3110mでその上に奥穂高岳3190m、右の稜線上に西穂高岳、画面左端に前穂高岳3090mと3000m峰が延々と続く。つまりこの稜線が北アルプスのメインストリートである。特に北方の燕岳から大天井岳を越え、この槍ヶ岳経由で穂高に至るコースは古くからアルプス銀座と呼ばれて特に有名である。

⑫ 浅間山

Mt. Asama

長野県と群馬県の県境、上信越国立公園の南端にある。まだ残雪深い浅間山2568mを東南方向から4月18日午前10時頃空撮した。最高点は写真右上の外輪山の頂上である。浅間山は北面から東南面までは自然がそのまま残っていて感動的である。特にこの東南面は纖細微妙、精緻の極みとも思われる造形で、飛行機から眺めていてこれは凄いと思うのであるが、西面に出ると登山道や車道やいたる所にスキー場があつて見たくもない風景になる。

⑬ 浅間山噴火口鳥瞰

Mt. Asama crater from above

浅間山2568m。噴煙を上げている火口の直径が450mもあるという。最初の噴火が685年、最も有名なのは1783年の大噴火で北麓の鎌原村を全滅させた。この時の溶岩流が今日の鬼押出しで有名な観光名所になっている。噴火口などを真上から撮るのはパイロットと息を合わせることが重要で、どの部分をどの角度で撮るかを決め、そのポイントの直前に声をかけ合って一気に80度くらい機体を傾けてその瞬を撮り、すぐに機体をたて直す。

⑭ 富士山赤変

Mt. Fuji bathed in red

富士山は山頂から裾野まで見事な対数曲線を描いて、希に見る壯麗な姿をしている。だから古来信仰の対象にもなった。にもかかわらず、いたる所に人工物的登山道が写ってしまうのは耐えられないが、この北西側だけは登山道がなく、古来の自然のままの姿が残っていて美しく、雪の表面や岩の形や流れ方まで一つ一つが味わい深く感動的だ。富士山は遠くから眺めて秀麗だが、近くから眺めても又別の美しさがあつて絢爛で壮観なのである。

⑮ 大山夕照

Mt. Daisen in the glow of dusk

天下に名高い鍵掛峠からの大山南壁である。撮影は11月13日、すでに上方の木々の葉は落ちていたから鍵掛峠からの紅葉の撮影はこの日が最高と思われた。特に夕方快晴になって、長波長の赤い光が直接風景に投射したから紅葉はよけいに赤く映えたようで見事に真っ赤になった。この季節、鍵掛峠の駐車場の山側の細いテラスは午後になるとカメラマンで満杯になる。ただ撮るだけでなく、自然とは何かを同時に考えて欲しいと願っている。

⑯ 沸騰する火口

A bubbling crater

阿蘇は東西18km南北25km周囲が120kmもあり、その中に有名な阿蘇五岳がある。高岳、中岳、根子岳、杵島岳、烏帽子岳だが、私は往生岳も含めて阿蘇は六岳と昔から書いている。とくにこの中岳は今も生きていて噴煙を上げている。地下から恐らく強烈な酸が吹き上がって硫酸や硝酸の湖であろうが、それが煮えたぎって白煙を噴き上げながら、俺は生きているぞと懸命に自己主張している様は、私にはとてもすばらしい風景に見える。

⑰ 九重硫黄山と阿蘇遠望

Mt. Io in the Kuju Mountain Range, with Mt. Aso in the distance

阿蘇九重国立公園の阿蘇山群と九重山群が、同時に1枚の画面に入った、めずらしい写真である。手前が九重山群で画面下が三俣山1745m、左の噴煙を上げているのが九重硫黄山1554m。画面右遠くで噴煙を上げているのが阿蘇中岳1506m。2月8日夕方撮影した。画面上部に水平線のように左右に延びる線がスマッグと空の境界線。この線の下にスマッグが充満して風景が鮮明には見えない。颱風の直後を除いて日本全国、年中こうである。

⑱ 三俣山

Mt. Mimata

九重山群の三俣山1745mを牧ノ戸峠から5月31日の夕方撮影した。毎年5月下旬には一面にミヤマキリシマが咲いて風景が一新される。新緑の緑とピンク色の色彩が織物のように展開される眺めはすばらしい。この牧ノ戸峠には相当大きな駐車場があるが、周辺の山に登る基点でもあるため、週末はよく満杯になるようだ。ここから西に40分登れば黒岩山、東に30分登れば沓掛山で、その道中からも頂上からもミヤマキリシマの風景がよく見える。

⑲ 新燃池残像

Afterimage of Lake Shinmoe

かつての霧島屋久国立公園は2012年3月16日、屋久島が独立した公園になり、霧島は霧島錦江湾国立公園としてこちらも独立した。霧島部分の景観の中心はこの新燃岳である。それが2011年1月27日大爆発した。これは爆発する3ヶ月前の新燃岳の全景である。左上部が1421mの最高点、画面右方に2個ある岩峰が兎の耳である。火口湖の新燃池は直径150m、水深は30mであったが今は跡形もない。今日の姿と比較するための写真である。

⑳ 新燃岳俯瞰

View over Mt. Shinmoe

大噴火の2ヶ月半後の4月14日に⑲とほぼ同じ位置から航空撮影した。火口底にあった新燃

池も、跡形なく吹き飛んで全面赤グレーの火山灰で覆われ、かつては1ヶ所にまとまっていた噴煙も、今は好き勝手にあちこちから吹き出している。火口内に溶岩ドームがせり上り、火口がすっかり浅くなった。兎の耳も下方の1個が欠けてなくなった。しかし大爆発にもかかわらず火口壁の全体像は残った。当分は知らぬ顔して大人しくしているのか。

㉑ 高千穂峰

Mt. Takachiho

霧島火山群の東南端に位置するピラミッド型をしたコニーデ火山で標高1574mの名山。手前の噴火口は御鉢と呼ばれ直径500m、深さ300mある。1913年に大爆発を起こした跡である。この御鉢が鹿児島県で高千穂峰は宮崎県に属している。頂上の向うの鋭い山が寄生火山の二子山1321m、上空から撮ると背後の山が高くなる。その向こうに御池が写っている。天尊降臨の建国神話でも有名で、頂上には鉄製の天ノ逆鉢が柵で囲まれて立っている。

㉒ 朝焼けの噴煙と満月

Plume in morning glow with full moon

撮影は2009年11月3日。日の出の頃に満月が沈む月日と時間を調べて桜島に行った。この日はまだうす暗い頃に1回噴煙を上げ、これが2回目だった。噴火直後の写真も撮ったが、この写真を使用した。第一に晴天であること。第二に太陽が水平線から昇って山が赤く染まった時に噴火してくれること。第三の条件はその時、月が理想的な明るさで理想的な高さになくてはならない。総ての条件を満たすのは、ただ運次第という撮影になる。

㉓ 桜島噴火の瞬間

Sakurajima Volcano at the moment of eruption

火山は噴火した時が火山である。しかも昼間は噴火しても火はほとんど見えないし写真にも写らない。ならば夜の噴火をねらうしかない。今回紹介した桜島噴火の夜景は、2011年3月18日から29日までと、いったん東京に引き返し富士山を撮影して再び4月10日から23日までの計26日間、もちろん夕方から空が明るくなる明け方まで噴火口のあたりをにらみながら、光ったらすかさずシャッターを切る、という動作をくり返した写真である。

㉔ 噴火と火山雷

Eruption and volcanic lightning

写真では噴火の火ばかり写っているが、実際には真っ黒い噴煙が同時に噴き上っている。噴煙が物凄いとその噴煙の中で火山雷が発生する。この写真の場合雷が弱いから噴煙もそれ程強力ではなかったようである。桜島は2009年の

後半から噴火が活発になった。噴火の回数が増えてから、火柱がこれまでのように上に向って上がらず、噴火口に火をまき散らすような噴火になり、噴火口の大きさがかつての3倍くらいにも広がったそうである。

㉕ 桜島燃ゆ

Sakurajima Volcano on fire

噴火口は南岳の東斜面であるから東からでないと撮れない。偵察で桜島一周道路の基点から北限の浦之前港の間で噴火口が何とか見える場所が4カ所あった。この写真は一周道路から数百メートル登った車10台くらいが駐車できる場所から撮影。ここが一番有名なのは、地元のテレビ局が初めて夜の噴火を撮影し全国放送した場所だからだという。夜中に風向きが変わってカメラに火山灰が猛烈に降り積もったこともあるが、総ては運である。

㉖ 羽衣の滝

Hagoromo Waterfall

北海道中央部、大雪山の山群西側にある7段の秀麗な滝で、落差は270mと公表されている。10年前、世界の100名瀑を確定するため、世界的に著名な滝研究家6氏による選定委員会を設立した。推薦された日本の滝は6滝で、羽衣の滝もその一つ。落差は250mと算定された。私なりに調査し、唯一残っている昭和27年の調査資料に落差270m、その注に「目に見える部分250m」とあったので、落差250mで羽衣の滝を「世界百名瀑」に選定した。

㉗ 銀河の滝・流星の滝

Ginga and Ryusei Waterfalls

北海道上川郡の層雲峠にある滝で、左が銀河の滝で落差120m、別名雌滝。右が流星の滝で落差90m、別名雄滝。明治期には2滝を合わせて夫婦滝と命名されていた。私はこの2滝をまとめて世界百名瀑に決めた。選定委員会が提示した日本の6滝の中に当初この2滝は含まれていなかった。私がこの滝にこだわったのは銀河の滝の優雅さである。これ程までに精緻を極めた繊細な造形は、世界広しといえどもこの滝以外にはないと思う程美しい。

㉘ 梅花皮の滝

Kairagi Waterfall

山形県小国町にある高度差270m7段の滝の上2段である。日本では北アルプスの称名の滝に次いで落差第2位の凄い滝である。2007年私が「世界百名瀑」を選定するにあたり、アメリカやドイツの選考委員から提示された日本を代表する6滝中の1滝である。日本人の私さえこの滝があることなど知らなかった。彼等が衛星写真を解析して算出した落差が886フィートだった。

それでも日本には日本人も知らない凄い風景があることに驚く。

㉙ 華厳の滝鳥瞰

Kegon Falls from above

霧降の滝、裏見の滝と合わせて日光三名瀑の一つ。落差97m、幅7m。807年に日光を開山した勝道上人が発見したという。華厳の名称は、仏教の經典「華厳經」に由来するといわれる。さほど有名な滝ではなかったが、1903年旧制一高の学生が滝の近くの大木に「巖頭之感」と題する辞世の言葉を刻んで滝壺に飛び込んで自殺し、それをマスコミが「哲学の死」などと連日はやし立てたために自殺者が100人も後に続いて、一躍その名を広めた。

㉚ 白山・阿弥陀ヶ滝

Amida Falls, Mt. Hakusan

岐阜県郡上市にある。白山国立公園から少しはずれた南方向に位置していて落差60m幅7m。白山信仰修験道滝行の地として知られる。723年白山を開山した泰澄によって発見され、天文年間長滝寺の僧が護摩を焚いて修行中阿弥陀如来の姿が現れたところからこの滝名が付いた。撮影したのは11月1日で水量が丁度よかつたために阿弥陀仏が立ち上ったような姿に写ったと思われる。自然が作る造形は何とも不可解で面白というか不思議である。

㉛ 秩父・丸神の滝

Marugami Falls, Chichibu

埼玉県秩父郡小鹿野町にある。秩父多摩国立公園の北端地域からわずかにはずれた地点で、3段の段瀑である。上段12m、2段目14m、3段目50m計3段で落差76mである。埼玉県の県民ですらこの滝の存在を知らないといわれるくらいで観光客も極めて少ないが、設備は整っていて、この写真を撮影した観瀑台など東屋であった。光の関係であろう可愛い神々が現れた。今度は目付の鋭い宇宙人がダブルだが、首元がしづくちやで可愛い。

㉜ 弥陀ヶ原と称名の滝

Midagahara Plateau and Shomyo Waterfall

北アルプスの富山県側、剣岳や立山の西側にある溶岩台地の広大な高原が弥陀ヶ原。台地を浸食してきたゴルジュの先端から落ちるのが日本最大の名瀑、落差349mの称名の滝である。撮影は10月末、山は新雪で白く、滝の周辺の紅葉も最終のようであった。遠い山並みは、左端に頂上が見えるのが剣岳2999m、その右が前剣、その右平たい白い山が立山、その右高い山が立山、その右平たい黒い山が淨土山、次の三角山が鬼岳、右端が獅子岳。

③ 白糸の滝俯瞰

View over Shiraito Falls

静岡県富士宮市上井出にある高さ20m、幅200m、水量毎秒1.5トンの滝である。この滝は品性が高く独自の造形を持っていてすばらしいと思う。200mにわたる滝の正面に太陽が当たるのは紅葉の秋ならば10時から11時までに限られる。それに青葉若葉の春から夏は、葉っぱが多くて滝が半分くらいしか見えなくなるから、上の展望台周辺から撮るには秋か冬がいいと思う。立入禁止の展望台の柵の後ろに積み上げられた箱の上から撮影した。

④ 那智の滝

Nachi Falls

和歌山県那智勝浦町那智山にある落差133mの日本有数の名瀑。「一の滝」とも呼ばれ、上流には二の滝、三の滝、弁の滝など「那智四十八滝」があり古来どの滝も修験道の行場であった。この滝の最大の特質は落下する水が信仰の対象であること、水そのものがご神体というものは世界にも例がないのではないか。この滝を眺めていると一種莊厳な霧囲気を感じる。品性も格調も高い。それがかつては自然に信仰心に結びついていたのであろう。

⑤ 神庭の滝と虹

Kanba Falls with rainbow

岡山県真庭市神庭にある落差110m幅20m、神庭川にかかる滝で西日本一と称される。周囲は公園になっていて、入り口には餌付けされた野生の猿が數十匹もいる。岡山空港からヘリを飛ばして空撮したが、驚いたことに滝の上に2車線の立派な車道があって、車が走っているのにはがっかりで腹が立った。下から見上げる分には深山幽谷で見事だが、上から見るとまるで安普請の作りものの滝に見えた。下段の滝に虹がかかって所を撮った。

第2部 湖沼・森林・ 渓谷

⑥ 能取湖サンゴ草

Coral grass by Lake Notoro

北海道網走市の北西に位置する能取湖、その南西岸4haにわたって、アッケシ草が秋になると一面サンゴを敷きつめたように真っ赤になる。そのため、このアッケシ草がサンゴ草と呼ばれ

るようになったのである。能取湖もかつては西側に2ヵ所サンゴ草の群落があったが、今は申し訳なさそうに少々残っているに過ぎない。湖の南端に唯1ヵ所赤い風景として、サンゴ草が見事に群落をなして輝いている場所がある。撮影したのは、9月29日。

⑦ 摩周湖朝光

Lake Mashu in morning light

摩周湖は北海道の東部、弟子屈町にある。周囲21kmのカルデラ湖で、水面の標高は355m、最大水深が211.5m。この湖は、その透明度がロシアのバイカル湖に次いで世界第2位であったことから有名になった。一時は41m以上で第1位になった年もあったが、今日ではほぼ毎年20m前後に後退した。流入流出河川のない閉鎖湖が、透明度だけ下がる原因は今でも不明だという。湖の南端に第一展望台があって、そこから撮った日の出の風景である。

⑧ 摩周湖俯瞰

View over Lake Mashu

画面中央左がアイヌ語で神の山と命名された摩周岳858m。頂上のすぐ上の、アイヌ語でカムイシユ（神となった老婆）と名づけられた中島は、湖の底から240mある溶岩ドームの頂上部分である。その上方摩周湖の壁の上に第三展望台があるが写真では見えない。その上の白く傷ついた山が硫黄山。その奥の横長く青い水が日本最大のカルデラ湖屈斜路湖で、中央左の島が、これも中島である。北海道の自然はまだ健在で、貴重な大地だと思う。

⑨ 屈斜路湖黎明

Lake Kussharo at dawn

夜明け前に屈斜路湖の展望台から撮った。駐車場に着いた頃はまだあたりは真っ暗で、駐車場は凍って、アイススケート場になっていた。北海道での撮影は氷の上を歩くこともあって、万一のため簡単な4本爪のアイゼンをザックに入れて持ち歩いている。今回はこの小さなアイゼンに決定的に助けられた。撮影したのは12月6日の夜明け前である。東の空が明るくなるに従って目の前が莊厳な姿になり、涙が出る程神々しい風景になった。

⑩ 屈斜路湖の太陽柱

Shafts of sunlight on Lake Kussharo

美幌峠の展望所から撮った太陽柱（サンピラー）。日の出又は日没時、太陽から地平線に対して垂直方向に炎のような光芒を見せる大気現象である。風のない静かな日でなくては現れない。2月19日の早朝日の出直後に撮った。4年間にたった7回通っただけで、全く予期していなかった大気現象に遭遇して幸運だった。風

景写真は、晴雨の天候から始まって雲の多少や光線の強弱や光の方向まで何もかも自然まかせて、人間の自由にはならない。

⑪ 大雪高原えぞ沼

Lake Ezo, Daisetsu Highlands

大雪山高根ヶ原の東側に点在する沼を空撮した。ヘリから撮る場合、真下をねらうことが多いためドアを取りはずすが、札幌丘珠空港からはずしたままでは長時間寒い上にスピードを出せないから時間も2倍かかる。で、方向が違う旭川空港でドアをはずして大雪で沼を撮って反対方向の旭川空港に引き返し、ドアをつけて札幌に帰る。役人の規制のせいでの飛ぶ度に大金をドブに捨てなくてはならない。撮影は10月6日、地上には雪が来ていた。

⑫ 知床四湖

Shiretoko Lake Four

知床五湖の撮影は2008年から5回現地に行つたが、その4回目の2009年9月12日にやっと5湖全部を見て廻ることができた。それまでは常に二湖の入口までで、熊が出るとかで閉鎖され、五湖をめぐる撮影は何回も無駄をくり返してようやく撮ることができた。9月であるのにこの四湖の木々がまるで新緑のように青々としているのに驚いた。しかし1ヶ月後には自然が有無をいわせず紅葉で赤く染め上げる。バックの山は硫黄山の連山。

⑬ 知床二湖秋景

Shiretoko Lake Two in autumn color

紅葉がいよいよ盛りになった10月13日撮影の知床二湖。右から羅臼岳1660m、三ツ峰1509m、サシリイ岳1564m。知床五湖はかつて名前さえなく観光客が来るような所ではなかったが、2005年の世界自然遺産登録以降、その数は年間50万人に達した。車で行ける観光地の中で五湖は最も繊細で美しくて静寂である。間もなく何もかも雪で白一色につぶれてしまう五湖や知床連山が、今年最後の意志と意気を高らかに謳い上げているように見えた。

⑭ 倶多楽湖

Lake Kuttara

北海道の白老町、登別温泉の東方2kmにある周囲8kmの円形のカルデラ湖、流入流出河川はなく水質日本一、透明度は摩周湖に次いで国内2位、一周道路はないから、大古の昔のままの原生林に囲まれた、日本では希有な原初の風景を眺めることのできる湖である。道路は日和山から湖の東南岸に近づいて、また南に離れて行く。もちろん冬期は通行止めになるから、四季を通して日本ではめずらしい静穏の地。全く無人静寂の日の出の風景。

45 十和田湖錦秋

Lake Towada in a tapestry of autumn color

十和田八幡平国立公園の中心がこの十和田湖である。青森県と秋田県にまたがる周囲46kmの二重カルデラ湖。水面標高401m、水の深さ327m。十和田湖畔の山上にある展望台瞰潮台から10月24日に撮影した。紅葉は見事に真っ盛りであった。画面中央に島のように写っているのが鳥帽子岩、左上の岬が日暮崎、すぐ右下にあるのが鴨ヶ崎、右上の山が御倉半島の御倉山690m。その上遠くの山が十和田湖一周道路上にある展望台御鼻部山1011m。

46 蔦沼明暗

Light and shade on Lake Tsutanuma

青森県十和田市、十和田八幡平国立公園内にある。南八甲田連山東麓の蔦温泉から始まる「蔦の七沼」めぐりの中で最大の沼で、最も写真になる沼でもある。周囲1km、面積6ha。蔦沼の真西に位置する南八甲田赤倉岳の噴火による土砂によってこれらの七沼が形成された。一般的には近くの6沼をめぐる。まずこの蔦沼、鏡沼、月沼、長沼、菅沼、瓢箪沼の6沼で所要時間1時間余。7つ目の沼は蔦沼から直線距離で北西2km弱の地点にある赤沼。

47 鏡池と戸隠山

Kagami-ike and Mt. Togakushi

上信越高原国立公園に属し長野県の北端、戸隠高原にある。鏡池とは前方にある風景をまるで鏡で映したかのように見せるところから名づけられたという。我々が撮影した日も湖面は静かであったから、そのように風をさえぎる地形にあるのかもしれない。紅葉の風景が有名だが思い切って緑の風景にした。撮影は7月21日午前4時45分から。早朝の高原の霧氷気はある程度出たように思う。心おだやかにしかも晴々とする静かな風景である。

48 志賀高原蓮池

Hasu-ike, Shiga Highlands

長野県山ノ内町に位置している。上信越高原国立公園中央部の中心地である志賀高原の、そのままメインストリートに面したホテルの裏側にこの蓮池がある。志賀高原には有名な16個の池や沼があって、それぞれの姿形や表情を見せるが、この蓮池の紅葉は別格で凄いの一語である。ホテルの裏に細い遊歩道があって、散策しながらこの紅葉を眺めるのは至福。対岸にも遊歩道があるが、そちらからの眺めは建物が一杯目に入つて醜悪になる。

49 白神山地と岩木山

Shirakami Sanchi and Mt. Iwaki

青森県と秋田県にまたがる13万haに及ぶブナの原生林。そのうちの約1万7000haが1993年世界自然遺産に登録された。白神山地は崖崩れが多発して林道建設が困難なこと、景勝の地ではなく観光客が近寄らなかったこと、ブナの木は椎茸栽培以外には役に立たないため伐採をまぬがれたことなどの要因が重なって、原生林が自然のままに残ったのである。遠くに見えているのが岩木山1625m。幸い快晴に恵まれ久しぶりに満足な撮影になった。

という。写真は大雲取越の北部にある「楠の久保旅籠跡」といわれる地域。かつてはこのあたりに十数軒の旅籠があったといわれる。当時は多くの熊野詣の人達の往来があったことを示している。緑の苔に覆われ、その上を歩くのがばかれるような道が続くのである。心身共に晴れやかに豊かに満たされる。

54 サキシマスオウの木

A looking-glass mangrove tree

先島蘇芳の木は沖縄の西表島の南部の仲間川の上流にある。仲間川が東洋のアマゾンと呼ばれるのは、小さいが原始の姿を今に伝えているからである。1982年イリオモテヤマネコを捜索中に偶然発見された。奇妙な板根を持つ樹齢約400年の樹。国内最大といわれる仲間川のマングローブ林とこの板根を見る船ツアーがある。西表島には小さいが板根の木の群落もあって、かつては板根を切り取り船の舵に使ったという説もある。

55 仏陀杉

The Buddha Cedar

屋久島の東南にヤクスギランドがある。ここは登山をしなくとも巨木を見て歩くことができる。千年杉、三根杉、天柱杉、蛇紋杉等々の巨大な屋久杉が立っている。その中の代表的な杉がこの仏陀杉。樹高21.5m、幹周り8m、樹齢は約1800年、木の左側に大きな穴があいて、中をのぞくと相当に空洞化が進んでいる。が見るからに頑固一徹にとことん生きてきたぞという風情がすばらしい。曲った節々を見ていると、お疲れさまといってやりたい。

56 翁杉

The Okina (Old Man) Cedar

屋久島の中央部の山中に、繩文杉や大王杉などの大木が集まった地域がある。その入口に立っていたのがこの翁杉。樹高23.7m、幹廻り12.6m、樹齢約2000年、特に幹廻りは繩文杉に次いで二番目に太かった。撮影したのは2009年8月21日であったが、1年後の2010年9月9日夜、根本から3~4mの所で幹が折れ破片を舞き散して倒れた。今日現場にこの姿はないが、私の写真集や写真展の中で、生きていてほしいと願って収録することにした。

57 繩文杉

The Jomon Cedar

屋久島の中央部の山中に、屋久杉では今日確認された中で最大の繩文杉が立っている。繩文時代から4000年生きていたからというのが名前の由来。樹高25.3m、幹廻り16.4m。屋久島の地面は花崗岩があるため栄養分少なく成長が遅いから木目が詰まっている。そのうえ降

50 岳岱原生林

Dakedai primeval forest

白神山地の秋田県側にある岳岱自然観察教育林の中で撮った。7月29日真夏であるというのに、まるで食いつきたくなるような黄緑の若葉に驚いた。サラダに飢えた男が、顔前に新鮮な生野菜をつきつけられたような感じである。私はこれまで外国も日本国内もずい分と撮影の旅をしたが、これ程見事な新緑を見たのは初めてであった。日本は紅葉だけでなく新緑の風景も凄い。生存が保障されたような安心感に、心の底からうれしくなった。

51 志賀高原平床

Hiratoko, Shiga Highlands

群馬県の草津から長野県の志賀高原へ横手山を越えて、山脈の稜線を完全に破壊した、見るに耐えない醜悪な道路が作られた。自然もここまで徹底的にやられたら、当然立ち止って復しゆうを開始する。それが近ごろの親殺し子殺しに直結したのだ。私は若い頃毎年志賀高原からリフトで横手山に登り、スキーで撮影しながら万座で1泊し、次の日に草津まで山スキーで下った思い出も目茶苦茶だ。一方の出口平床の紅葉も淋しそうに見えた。

52 石徹白の大杉

Itoshire giant cedar

岐阜県郡上市、白山国立公園内にある杉の巨木。幹周り14m、樹齢1800年余りといわれる。写真の東面は肌もつややかで見事に健在だが、反対側の西面は残念だが枯れていて東面のような輝きはない。国の特別天然記念物に指定されている。白山登山口の入口にあって、駐車場まで車で入ることができる。そこから300mの急坂を登ると、この巨大な壮大な樹すらある大樹に出会うことができる。この木を眺めていると生命の偉大が伝わってくる。

53 熊野古道大雲取越

Ogumotorigoe on the Kumano Old Road

和歌山県那智勝浦町にある熊野那智大社から、32kmにわたる困難な山道を北に歩いて、熊野本宮本社に至る参詣道を大雲取越、小雲取越

雨多く湿度が高いから樹脂分が多くて腐りにくい。だから金になる木はことごとく切り出された。人間よ金にならない木の凄さと見事さをよく見ると縄文杉は立っている。

58 縄文杉根幹

Base of the Jomon Cedar

これが幹廻り16.4m縄文杉の胴体である。屋久杉は樹脂分多く抗菌性強く耐久性に優れているから、建築材や造船材として、明治時代までにほとんど伐採されてしまった。今日残っているのはいびつで柱にも板にもならない、つまり金にならないものだけである。しかし、この金にならない屋久杉の見事なものよ、この一枚の写真をじっくり見てほしい。私には4000年間風雨に耐え抜いた強靭な意志に崇高さや畏敬の念さえ感じるのである。

59 天人峡・七福岩

Shichifuku Rock, Tenninkyo

北海道上川郡の天人峡温泉にある。忠別川からそり立つ岩壁は柱状節理で、中でもこの天を突く鋭い7本の岩が際立った風景を作っている。写真はその中の4本の岩峰。撮影は10月6日、紅葉は真っ盛りで見事な景観を堪能した。旭川から車で1時間の手軽な場所で、この先には有名な羽衣の滝もあるが、途中の上忠別橋から右折してこの天人峡周辺に来る人間は少なく、羽衣の滝も含めて静かであるのが何よりもすばらしく最高なのである。

60 層雲峠・双子岩

Futago Rock, Sounkyo

北海道上川町にある大峡谷。3万年昔大雪山が噴火し、火碎流がこのあたり一帯を埋めつくした。その後石狩川が浸食して、今日の高さ200m、長さ24kmに及ぶ断崖絶壁の大峡谷を水が削り取って作り上げたのである。この写真は上流に向かって左側の岩壁の一部を撮った。左が双子岩、右がこうもり岩。ホテル街のすぐ下流にある。撮影したのは10月5日、銀泉台あたりの紅葉はとっくに終わっていたが層雲峠では今を盛りと見事であった。

61 清津峠

Kiyotsu Gorge

新潟県十日町市、上信越高原国立公園の中にある日本三大峡谷の一つ。信濃川の支流清津川が浸食して大峡谷を作った。この風景が凄いのは、ただの谷間の風景ではなくて、100mを越える岩壁が繊細な柱状節理で形成されていることだ。清津峠には展望用のトンネルが掘られ、その全長750m。写真は最奥のパノラマ・ステーションと呼ばれる展望所から撮った。撮影は11月6日。清津峠周辺がまた一面に見

事に紅葉していて、凄い風景を堪能した。

62 八幡平松川渓谷

Matsukawa Ravine, Hachimantai

岩手県の岩手山と八幡平の間に松川が流れている。松川温泉と八幡平温泉を結ぶように流れるのであるが、この松川渓谷は岩手県下有数の紅葉の名所としても知られている。もちろんその紅葉をねらって現地に入ったのであるが、私は同時にこの岩壁の柱状節理にもっと驚いた。ものの見事というか、凄いの一語である。柱状節理のすき間に点々と小さな木々が生え、それがとりどりの色に紅葉する。日本の自然を象徴する繊細さである。

63 畿仙峠

Shosen Gorge

秩父多摩甲斐国立公園内、山梨県甲府市荒川の上流にある。川の水が花崗岩を深く浸食することによってこの峡谷が作られた。写真上部の岩は覚円峰と呼ばれる高さ180mの巨岩。全国観光地百選渓谷の部第一位とか、平成百景第二位とか地元の大宣伝が功を奏してか、土・日や祭日は観光客の行列が続く、まるで新宿か渋谷の駅前のような雑踏になって、風景を眺めに来たのか、人間を見に来たのか分らなくなる。しかし紅葉は見事であった。

64 鬼怒川楯岩

Tate Rock by Kinu River

栃木県鬼怒川温泉にある天地70mの巨岩である。戦いの際に使う楯に似ているからこの名前がついた。121号線が通る立岩橋の上から2010年11月10日に撮影。2009年全長140mの鬼怒楯岩大吊橋が完成して楯岩頂上に展望台を作った。年間50万人もの観光客が押し寄せた。楯岩が怒ったのか2012年5月楯岩の右上から崖崩れが発生、周辺一帯が立入禁止になった。楯岩橋の上からも今日写真のように見えないが、かつての姿を残すことにした。

65 滝ノ拝

Takinohai Rapids

和歌山県南部の古座川町、その古座川の小川という支流の川床が、1kmにわたって写真のような異様な模様に彫刻されている。石が水流で転がってきて岩床の岩石を削って次第に穴状になった。そこに落差8mの渓流瀑がある。滝の拝とは昔の人達が、この異様な風景と滝を神として拝したからという。ろくでもない科学に汚染された現代人には、馬鹿みたいな風景にも昔の人達は理解しがたい不思議には、素直に信仰心を持ったのである。

第3部

高原・湿原

66 銀泉台の日の出

Sunrise at Ginsendai

北海道大雪山国立公園の表大雪エリア。標高1500m。銀泉台が有名なのは日本で最初に紅葉が始まる所であり、その紅葉が実に見事なことからだ。それだけに人間が押し寄せるため、例年9月中旬の10日間ほどマイカー制限が行われ、シャトルバスでの往復となる。だが始発のバスで向かっても撮影地点到着時太陽は中天にある。だから私はマイカー解禁の直後暗いうちに銀泉台に着いて山に登る。この地点からの日の出は何度見てもすばらしい。

67 銀泉台紅葉

Autumn colors at Ginsendai

銀泉台から赤岳への登山道を30分も登ると撮影地点に至る。『永遠の日本』では日本全国4万ヶ所を撮影し、紅葉の名所も可能な限り撮った。そして淡い緑に濃い緑、黄色にオレンジに真っ赤と、紅葉を見事に構成する色が豊かに揃っている最高の場所が、この地点だと思う。写真では色彩以上にそれを構成する形も重要な要素から、ここが写真に最高の場所とはいえない。だが紅葉を作る樹々がバランスよく揃っているのは自然の妙であろう。

68 大雪高原

Taisetsu Highlands

式部沼の少し手前から高根ヶ原と紅葉を撮った。銀泉台同様ここも北海道上川町である。そしてやはり日本を代表する紅葉の名所である。撮影したのは9月25日、紅葉のピークであった。画面奥の高台が高根ヶ原で、これが東に向かって地滑りを起こし、陥没した土砂があたり一帯をせき止めて、100個以上の沼ができるのである。写真に沼は写っていないが、今でも30個以上の沼が生きている、そのどれもが紅葉に美しく輝くのである。

69 姿見平から十勝岳

Mt. Tokachi from Sugatami Daira

大雪山旭岳ロープウェイで姿見平に登ると、左前方のすぐ近くに第一展望台がある。そこから遠く南西の方向にそびえる山々で、右方が十勝岳2077m、左方がオブタテシケ山2012m。中間の低い山が美瑛岳である。ロープウェイの姿見駅は大雪山の主峰旭岳の5合目にあって、標高が1,600mと高度があるので周囲の山群の眺めもすばらしい。9月18日であったが、緑の

ハイマツの中の紅葉がすでに鮮やかに色づいていて、爽快な眺めであった。

⑦ 望岳台から山麓

Mountain foothills from Bogakudai

大雪山国立公園の十勝岳を眺める有名な展望台である望岳台から、冬期は閉鎖される細い道が十勝岳温泉に延びている。その入口から上富良野方向を見た風景である。丘や林が自然のまま残り、それが紅葉して見事であった。特に熊笹の中に木々がいっぱい立って、それが紅葉している風景が北海道では一般的かどうか知らないが、私は初めて見て感激した。私の知る限り東北にも北アルプスや北陸でも見たことのない希な風景のように思う。

⑧ 川湯・帽子山

Mt. Boshi-yama, Kawayu

阿寒国立公園の摩周湖と屈斜路湖の中間にあるサワンチサップ520m、通称帽子山。すぐ手前は、地元でキツネ山と呼ばれ、紅葉の美しさで知られている。手前の流木は恐らく硫黄山の火山ガスで立ち枯れになった木々が倒れ、長年月かけてここまで流れてきて堆積したのである。流木の中の低い木々が見事に紅葉しているから、数十年も昔から続く風景なのではないか、見ていると木々の生い立ちや末路や自然の営みの深さまで思い知らされる。

⑨ 立山地獄谷の落日

Sundown on Jigokudani, Mt. Tate

中部山岳国立公園富山県側立山山麓にある。立山火山の爆裂火口跡で周囲1.5km、今日もおびただしい噴気口から白煙を吹き出している。ここに136の地獄があるといわれるのは修験の行場であったことと、『今昔物語』などで多くの物語が伝えられたからだろう。10月1日の夕方、私の立山撮影において60年も昔から常宿である雷鳥荘の玄関前から撮影。この日の空は厚い雲の切れ目から黄金色の太陽が光り、なかなかに神秘的な風景になった。

⑩ 天狗の庭から吾妻小富士

Mt. Azuma-Kofuji from Tengu Garden

福島県の高湯温泉から南の土湯温泉まで、28.7kmの磐梯吾妻スカイラインが延びている。平均標高1350mの本格的な山岳観光道路である。このルート上に故井上靖氏が命名した吾妻八景がある。高湯料金所から入ると間もなく第一景“白樺の峰”があって、白樺の樹海が広がる。第二景が“つばくろ谷”で作品集に収録した。第三景がこの“天狗の庭”である。とにかくこの紅葉は物凄い。まさに絢爛とはこの紅葉のためにある。上部は吾妻小富士。

⑪ 箱根仙石原

Sengoku-hara, Hakone

富士箱根伊豆国立公園の箱根の部分で神奈川県箱根町にある仙石原高原。標高約650m。火口湖跡が高原になったから周囲が火口壁の山に囲まれていて、遠近感零でなかなかまとまった写真にならず閉口した。秋紅葉のころ三回通ったが、東京に近いせいか常に車が多くて全く予定通りに動けない。特に土・日はどこも車で満杯で身動きがつかなくなる。仙石原を横断する道路上のあちこちから撮ったが。この仙石原を写真にするのは至難といえる。

⑫ 鬼女台からの蒜山

Mt. Hiruzen from Kimendai

中国山地の最高峰鳥取県の大山の東南約7kmに、鬼女台という大山山域有数の展望所がある。標高869m、そこから見た秋深い蒜山高原の日の出。撮影は11月14日で、スキが逆光に映えてすがすがしい風景であった。ヘリや小型機を飛ばすならば別だが、写真のような広い風景を地上から見るとなると北海道以外では大変に困難である。中国地方でこれだけ広い風景で尚かつ絵になるのは、恐らくこの鬼女台からの蒜山高原だけではないかと思う。

⑬ 大山と烏ヶ山

Mt. Daisen and Mt. Karasugasen

鬼女台から反対方向を撮った。左遠くのなだらかな山が大山1729m、右の三角山が烏ヶ山1448m。撮影したのは11月13日の夕方。すでに太陽光が長波長になって今年最後の紅葉がこれでもかと訴えかけてくるように真っ赤になつた。ものの見事にという言葉以外にない。何度も書くように、真っ赤に色づく日本の紅葉はとにかく凄い。だから日本独自のすばらしい風景を特集するとなれば、どうしても紅葉の写真が多くなるのは当然なのである。

⑭ 青龍洞

Seiryudo

山陰海岸国立公園の最南部にある。名前の通り海岸の公園だが、玄武洞を中心とする洞窟は円山川に沿った内陸にある。通常玄武洞として知られているが、他にこの青龍洞、白虎洞、北・南朱雀洞の五洞から成っている。五洞の最大の特徴は何といっても見事な柱状節理にある。青龍洞は自然のままに残っていて思わず見とれてしまう。ここには午前11時頃、太陽光が最も斜光線で正面に当たる。前面にある池の反射も写真的に面白くすばらしい。

⑮ 九重黒岳

Mt. Kurodake, Kuju Mountain Range

画面上部に写っている黒岳1390mは、阿蘇くじゅう国立公園内の九重側西端に位置している。全山原生林で雨水は地下深くに貯えられ、山の北側の画面手前には1日2万トンの湧水で有名な男池と、男池湧水群をめぐる車道がある。その途中、鉄山キャンプ場そばの駐車場から撮った紅葉と黒岳。九重もこのあたりの紅葉が最も凄いようだ。黒岳の南方に天狗岩という小さな山があるが、これなど全山紅葉して、赤一色の山になるほどである。

⑯ 湿原曙光

Wetlands bathed in the light of dawn

北海道の釧路湿原国立公園にある北斗展望台から日の出直後に撮った。屈斜路湖から流れ出して釧路川に沿って広がった日本最大の湿原である。暗いうちに駐車場に着き、そこから真っ暗な山道を十数分歩くことになる。夜明けになると湿原の全貌が見えてくる。湿原全体が葦に覆われハンノキの木や林が散在している。そこに太陽の曙光が走り、色彩がピンク色から金色に変化してゆく。この極上の風景を眺めないと心身壮快幸せになる。

⑰ シラルトロエトロ川

Shirarutoro-etoro River

屈斜路湖に端を発した釧路川が釧路港に流れ込む中間地点が標茶町、そのすぐ南から釧路湿原国立公園の領域が始まっている。つまりシラルトロエトロ川は国立公園の北端に位置する。今回の撮影で釧路湿原には7回通った。そしてシラルトロエトロ川周辺が釧路湿原で最も紅葉の美しいと確信した。釧路湿原は湿原が最大の特徴であることは百も承知の上であるが、その北部にはこれ程までに凄い紅葉がある事実を皆さんに知って欲しかった。

⑲ 釧路川

Kushiro River

これ程までに曲りくねった一級河川は、釧路川以外にないのではないか、またダムのない一級河川も釧路川以外にないであろうと思う。どちらに流れるかも分らない全くの平地を流れるから、とてもダムなど造れるわけがない。画面の右上にこの釧路湿原の代表的な細岡展望台があって、川は直下を流れるが、全く平凡にしか見えない。釧路川は季節を変えて幾度も上空から撮ったが、大地が紅葉した秋が青い水との対比も格別ですばらしい。

⑳ 釧路湿原夜明け前

Kushiro marshland before daybreak

真っ暗で熊が出そうな森林の中を歩いて北斗展望台に立った。カメラをセットしたらようやく夜が白み始めて、ハンノキ林が肉眼でかすかに

見えるようになった頃の雰囲気が最高にすばらしい。空気もこの頃が一番うまい。何の物音もしない全くの静寂の中で、徐々に赤くなった東の空の色が、湿原にわずかに映えて来た。その一瞬を撮った。いよいよ自然のドラマの始まりである。これからが勝負だぞ、と自分自身に気合いを入れて立ち向う。

⑧ 釧路湿原黎明

Kushiro marshland at dawn

北斗展望台から撮った日の出直後の写真、世界が赤一色から黄金色に輝き始めた“歓喜”的一瞬である。ただ写真はカメラの前方にある形も色彩も光の方向も何もかも、自然が作って自然がコントロールするから、ベートーヴェンのように自分の頭の中で、自由自在に“歓喜”を創るわけにはゆかないである。しかしあつかる日、身も心も全身が踊り上って、惹起躍動せずにはおかない“歓喜”的写真を撮影して、世に問いたいと念じている。

⑨ 弥陀ヶ原と月山

Midagahara and Mt. Gassan

磐梯朝日国立公園朝日山地の北端、出羽三山の一山である月山の中腹にある高層湿原が弥陀ヶ原である。標高1450mの高所に数百の池塘ができるのは、これらの植物が秋枯れても冬期低温で腐らず泥炭になり、その凹地に水がたまって池塘になった。画面上が月山1984m。月山弥陀ヶ原は秋の紅葉の風景も又すばらしいのであるが、本展では紅葉の写真が多いことから、この弥陀ヶ原はあえて夏期の緑が一面にしたたる風景を選ぶことにした。

⑩ 尾瀬ヶ原全景

Panoramic view of Ozegahara

至仏山2228mの上空から空撮した紅葉の尾瀬ヶ原全景である。正面の山が燧ヶ岳2356m、その右端に白く線のように写っているのが尾瀬沼で、北東方向になる。燧ヶ岳の約3分の1手前で福島県と群馬県の県境線が左右に走り、尾瀬ヶ原は南北に分断されている。周囲は至仏山、燧ヶ岳、袴腰山、中原山など2000m級の山々に囲まれた、東西6km、南北3kmの日本最大の高層湿原盆地。標高1400m内外とされている、地域全体が特別天然記念物。

⑪ 尾瀬ヶ原遠望

Distant view of Ozegahara

6月中旬に撮影した尾瀬は、至る所にミズバショウが咲いていて、のどかな風景であった。それが秋深くなった頃にはどうなるか興味があつて、10月23日空撮した。風景は一変、様相は劇的に変わっていた。これまで50年間、143カ

国の自然を撮影して季節による変化もしっかり見てきたつもりでいたが、この尾瀬の変貌を見ると自然とはここまでやるかと強烈に思い知らされた。このような色彩に変貌するとは誰も想像もしていないと思う。

⑫ 尾瀬ヶ原鳥瞰

Ozegahara from above

ヘリコプターの高度を思い切り下げて、尾瀬ヶ原の大地を大写しした。地表の至る所に動物が通る獣道が縦横に走っているのを見ると、相当数の動物が生息しているのが判る。尾瀬では特に木々が集まる林が細長いのは、そこが川だからである。画面の木々も川に沿って林になっている。季節がもう少し早ければ真っ赤に紅葉していたに違なく残念だが、左の池塘が光明に写ったのが収穫だ。日本には興味津々、すばらしい風景が満ちていて深い。

⑬ 燐ヶ岳と尾瀬ヶ原

Mt. Hiuchi, Ozegahara

約1万年昔この燧ヶ岳が噴火し、その流出溶岩によって下流がせきとめられて、今日の尾瀬ヶ原が誕生したといわれる。左のピークが祖畠2346m、すぐ左の一番高い所が柴安畠2356m、尾瀬ヶ原や尾瀬沼から眺める燧ヶ岳は普通の小さい大人しい山であるが、上空から見ると様子が一変して極めて烈しい表情をしているのに驚いた。山の右上オレンジ色の所が尾瀬ヶ原、その上の小さい山が至仏山。左上のギザギザ山が武尊山2158mである。

⑭ 小田代原と戦場ヶ原

Odashirogahara and Senjogahara

紅葉が真っ盛りの10月19日にヘリから空撮した奥日光の全景、左下方の湿原が小田代原、その右上横長く延びている平原が戦場ヶ原、中央の山が太郎山、左の小さい山が山王帽子山、右端が大真名子山、その右画面外に男体山が続く。小田代原や西ノ湖周辺はマイカーの乗り入れが禁止地区になっていて、自然がそのまま残っていることもあり、特に紅葉の頃は見事な風景になる。上空から見るとそれが何倍にも拡大されて感動的風景になる。

⑮ 日光湯川

Yukawa River, Nikko

奥日光湯の湖から落下した湯滝の水が、中禅寺湖まで12.4kmをゆったりと流れるのが湯川である。この水は中禅寺湖の近くで、もう一度有名な竜頭の滝となって落下する。湯川は西の小田代原と東の戦場ヶ原を分けて流れていることでも知られている。上空から見ると川の流れにそって樹林があり、それが常緑樹と秋が来て紅葉した落葉樹が入り乱れて、しかも草原の草

紅葉までもが加わって、豪華な色彩絵巻をくり広げているように見えた。

第4部

海浜・島嶼

⑯ 利尻・御崎の光芒

Glints of light at Misaki, Rishiri

日本の北端、稚内西に位置し、ほぼ円形の日本で18番目の面積の島が利尻島。私はこれまでよく山岳写真家と呼ばれた。山の写真が多く、作品集にも『アルプス』や『ヒマラヤ』があって山の写真が多かったせいもある。今回の『永遠の日本』では山以外の写真が極めて多くなったことに我ながら驚いている。撮影地点は利尻島の南端、仙法志御崎公園からの落日。何もない普通の場所であるが、私はここから眺める落日が最高と思っている。

⑰ 利尻・御崎夕照

Misaki, Rishiri in the glow of dusk

先住民のアイヌ民族は利尻をリー・シリと呼ぶ。高い島の意である。島の中央にそびえる利尻山1721mが、島そのものを形成している。北の外洋なので常に風が強い。御崎の奇岩累々は、利尻山の噴火による溶岩と波浪で作られた。そして今日も日々波濤を上げるのが逆光線に輝いて見事である。夕陽の傾きによって色彩が刻々と変化する。黄色から金色に、オレンジ色から赤へ、大自然の色彩の変幻を眺めるのは人生最高の悦楽ともいえる。

⑱ 流氷覆う

Sea covered in drift ice

知床国立公園のオホーツク海側の南端に見晴橋がある。そこから撮った流氷で埋まった海と落日。知床は車が行ける場所がごく限られている。特に冬季は生活道路以外は移動できない。が、この道はウトロと知床峠を越えて東岸の羅臼と、知床の二大生活圏を結ぶ重要な道で、常時除雪も行なわれているからいつでも来ることができる。しかも知床峠に向う道で高度も上がるから、海岸線から見るより全景が立体的見え、最高の場所といえる。

⑲ 知床岬と流氷

Cape Shiretoko and drift ice

知床半島の突端知床岬をオホーツク海の上空から流氷と共に撮影した。知床岳と硫黄岳ま

では見えるが、羅臼岳は雲の中である。秋撮影した際にはずっと後方の斜里岳まで写って凄かったが、今回は雲とスモッグに邪魔された。知床半島の突端を少し離れたとたん航空管制塔から「直ちに引き返せ」と無線で罵声が間断なく飛んで来る。ここは北方四島とは関係ない。純粹に自国の領土領海上を飛ぶ事が、それ程までにいけない事かと不思議である。

95 流氷と知床連山

Drift ice and the Shiretoko Mountain Range

網走と知床岬のはゞ中間点の上空から撮影した流氷と知床連山である。画面中央の一番高い山が羅臼岳、左へ順に三ッ峰、サシリイ岳、オッカバケ岳、次の平たい山が硫黄山。画面右端の低い山が天頂山、その左方の一番低い所が知床岬である。日本の風景は驚くほどに多彩である。春の新緑に紅葉があざやかな錦秋もあれば、全山真白い雪におおわれる冬山もある。それにこの写真のように知床周辺の海が一面に流氷で一変する風景もある。

96 知床半島旭日

Sunrise over Shiretoko Peninsula

網走港の少々東方向の海岸から撮影した流氷と日の出の太陽である。流氷が来るのは2月だが、毎年少々のずれはあるから、事前に地元に連絡して、着岸したことを確認してから出掛けている。この写真は2月27日に撮った。それまでの1週間ずっと悪天候で天気待ちをした。この季節、太陽は正面の海別岳の左肩から出る。全面凍った海面に流氷の塊が散在して、被写体としては面白い。やはり色彩豊富な早朝が最もエキサイティングである。

97 仏ヶ浦仁王岩

Nio Rock, Hotokegaura

仁王岩を海側の岩礁の上から撮影した。津軽海峡からの長年月の荒波をかぶり続けたにしても、硬い岩がたかが水によって、これ程までに浸食されるものか、つくづくと不思議に思う。自然の力がいかに想像を絶して物凄いか、この岩をじっと見ているだけで納得させられる。太古の人間は人間の思考や力などではいかんともし難い巨大なもの的存在を自然の中に感得した。だから信仰心を持ち、人間精神を獲得したのだ。そして人間になった。

98 十三仏と仁王岩残照

Afterglow on the Thirteen Buddhas and Nio Rock

極楽浜のあたりから太陽が水平線に沈む直前に撮影した。左の岩峰が十三仏、右方が仁王岩である。仏ヶ浦はかつて恐山と一緒に歩いていた、恐山を参拝した後この仏ヶ浦を巡拝して

いた。昔は下北半島の人達しか知らない秘境のような存在であった。それが一躍有名になったのは文人紀行家大町桂月が、「神のわざ鬼の手つくり仏陀人の世ならぬ処なりけり」と詠んでからである。この風景を見れば誰しも人の世ならぬ所と感じるに違いない。

99 浄土ヶ浜・剣の山

Jodogahama Beach and Tsurugi-no-yama

岩手県宮古市、陸中海岸国立公園で最も東側太平洋に突き出した部分にある。浄土ヶ浜に立つと入江の向い側に白い流紋岩の岩山が並んでいる。北西から鷹岩、エボシ岩、等々でこれが田代崎半島である。その中央にあるのが剣の山。草木が全然ない真白いが故に見る者を魅了する。その昔人里から遠くに眺められる雪山を白山と名づけて信仰した。人間は白いものに聖なるものを感得する。剣の山は浄土ヶ浜になくてはならないのである。

100 北山崎朝光

Kita-Yamazaki in the morning light

岩手県田野畠村にある。陸中海岸国立公園で最も有名な一地域である。かつて火山活動で溶岩が海に押し出されて碎けたが、このあたりの層が厚かったために氷河やその後の津波等に削られ、残ったのが今日の奇岩の多い断崖になったと伝えられる。200m級の断崖が8kmも続く海のアルプスとも呼ばれる特異な景観が作られた。太陽は写真の左方向の水平線から出て、南を回るからこの風景は終日逆光になる。北山崎第二展望台から撮影した。

101 石廊崎の日の出

Sunrise at Irozaki

静岡県伊豆半島の最南端にある石廊崎から撮った日の出の太陽。相模灘と遠州灘から打ち寄せる激浪で高さ100mの断崖が浸食され、特異な風景を見せている。この岩の上に太陽があつたら面白いと考えたのが最初で、石廊崎通いが始まった。詳細な地図を手に入れて、撮影ポイントから岩の左上方に太陽が来る位置を特定するため、パソコンで日の出の方位を調べ、地図の上に線を引いて割り出した。11月9日、6時20分から撮影を開始した。

102 鵜渡根島

Udone Island

伊豆諸島で本州から3番目に近い島である。富士箱根伊豆国立公園に含まれている鵜渡根島は、東京都新島村に属し、東西1.5km、南北600m、標高210mの無人島である。人間はないが、イルカがこの島の周辺に棲みついている。伊豆諸島の島々総てを航空撮影したが、そ

の中から写真的に面白そうな島を選んだ。この写真では島が傾いているように見えるが、これが正常であるから自然の形というのは人間の視覚や思考を超えているのである。

103 父島南島扇池

Ogi-ike Cove, Minamishima Island, Chichijima Archipelago

小笠原諸島は東京から南南東約1000kmの太平洋上に点在する30余の島々からなる。その中心の父島列島は、北から弟島、兄島、父島で、その父島の南西端にある南島の扇池。小笠原で最も有名な景勝地の一つである。この南島湾の上陸地点のすぐそばに、サメ池と名付けられた湾の一隅をのぞいたら、実物のサメがまるで群れていて仰天した。ここに自然に集まるという。小笠原まで来ると暑さも含めて驚くことがいろいろ多くて面白い。

104 智島列島針之岩

Harinoiwa Island, Mukojima Archipelago

小笠原諸島の智島列島は智島と媒島、嫁島の他小さい島を多数従えた列島で、この針の島は智島と媒島の間に南北に横たわる岩礁の上に、面白い形をした岩峰が数十本続いている。これだけでも極めてめずらしい光景であるが、近づいてびっくりした。それらの岩峰の一本一本が奇怪な動物のような姿をしているではないか。しかもこれは自然が作ったのである。そう思ったとたん腹の底からゾーとした。自然は人間の想像や思考を超えて恐ろしい。

105 新舞子浜夜明け

Daybreak on Shinmaiwa Beach

兵庫県たつの市の御津町黒崎にある。恐らく日本でもっとも遠浅の干潟が広がる場所ではないかと思う。干潮時には500m潮が引いて広大な干潟が現れる。画面右が瀬戸内海の播磨灘。水面が赤く染まるのは、画面の上に太陽が出るか、その直前東の空が赤くなるかで、この場所では冬至の頃に限られる。第二の条件はその頃に最も潮の引く日を調べ、その数日間に集中撮影することになる。第三の条件は天候で自然相手の撮影は極めて困難である。

106 新舞子浜黄金光

Shinmaiwa Beach bathed in golden yellow

日の出の太陽光は真赤である。具体的には紫赤から始まり赤くなるが、この頃はまだコントラストが弱くて写真にならない。4~5分でオレンジ色になる。生の黄色を視覚として感じるのは意識して見てもわずかの一瞬である。そのオレンジ色から黄色に変る15秒くらいの間太陽光は金色になる。その瞬間を撮った。雪山に

映える色彩よりも、水の反射の方が色の差が顕著に表われる。色彩の変化一つ取り上げても自然は何とも奥深い。

107 新舞子浜薄明

Shinmaiko Beach at twilight

早朝の新舞子浜を撮影する崖の上から、播磨灘の海岸線を夜明け前に俯瞰撮影した。赤くなつた東の空の色彩が投影されて面白い色彩になった。黒い部分は砂地である。画面上と右方向が播磨灘。左方向が新舞子浜になる。播磨灘からの波がここで防がれて、左方の新舞子浜の遠浅が全く静寂の風景になることが理解される。右下に鳥の集団がいる。波打ち際に餌があるのであろう。左に飛ぶ2羽の鳥が静寂な夜明けの雰囲気を作ったようだ。

108 釣島海峡

Tsurushima Strait

瀬戸内海は愛媛、広島を中心に西は福岡・大分、東は大阪・和歌山まで11の府県に海岸線を持つ東西450km、南北15～55kmの広大な地域を擁している。その中に大小合わせて3000の島がある。もちろん国立公園としても最大の面積である。写真は釣島海峡の落日。手前の島が睦月島、画面中央に横長いのが中島、すぐ左に小さい島が高島、中島の上の横長いのが怒和島、その左上が情島。1枚の写真にこれだけ多くの島々が写り込むから凄い。

109 塩飽諸島

Shiwaku Islands

高松空港でセスナをチャーターして今夜は瀬戸大橋の上空から夕方西に向って撮った。右下が本島、中央左右に長いのが広島、その右上がり手島、その左小手島でここまでが香川県、左上小さな並んでいる2個の島は、左が茂床島、右が大島、その上の横長いのが北木島でこれらの島々は岡山県。瀬戸内海を上空から眺めると至る所に島があつて、にぎやかで壯觀である。朝夕の海は長波長を受けてオレンジ色になり、太陽の反射は金色に輝く。

110 鳴門の渦潮1

Swirling tide at Naruto (1)

徳島県鳴門市と兵庫県南あわじ市の間にあるのが鳴門海峡、本州・四国間の海峡の一つで幅1.3km、この間を1日2回潮流が時速13～15kmで瀬戸内海に流れ込み、又2回流れ出す。大潮時には時速20kmになり、日本最速の潮流で世界三大潮流の一つともいわれている。渦の大きさも直径30mもあり、これも世界最大級である。写真はでっかいが可愛い犬が海峡に現われて、情けなさそうな顔をしながら、少しお世辞をふりまいている所を撮った。

111 鳴門の渦潮2

Swirling tide at Naruto (2)

大潮をねらって観潮船にも3回乗って撮影したが、結局大鳴門橋の橋桁や人工物が画面に入ってくるためあきらめて「渦の道」から撮った。新幹線を通す予定の所に長さ450mの遊歩道が作られ、そこから眺められる。海面からの高さ45m、一部ガラス張りの床下と左右は全面金網でおおわれて撮影は極めて困難であった。写真は平泳ぎしていた怪獣が突然首をもたげて我々を威圧してきた。表情も剝離で写真を撮ってコラッといつたら退散した。

112 紫雲出山の眺望

View of Mt. Shiude

香川県三豊市詫間町、莊内半島の中央部にある。紫雲出山とは浦島太郎が龍宮城から積蒲に帰り、玉手箱を開けたら煙がこの山に紫色にかかったとの伝説から名付けられた。浦島伝説は日本各地にあって、私も実際にいくつかの現地に立ったが、この莊内半島には太郎が亀を助けた鴨之越や浦島神社もあって、その雰囲気は最も濃厚である。写真は日の出直後の頂上からの眺めで、正面の島は粟島。春は1000本の桜が咲いて夢のような風景になる。

113 竜王山の桜

Cherry blossom on Mt. Ryu

広島県三原市須波町にある。山頂直下に駐車場があって、10分歩くと頂上に着く。4月8日早朝日の出直後に撮影した。桜はほぼ満開であった。すぐ隣りの山が有名な筆影山であるが、こちらの方が写真になるようだ。左が東南方向になるため早朝でも半逆光で、昼間は完全に逆光線になる。正面の島が佐木島で、画面左端の小さな島が小佐木島。瀬戸内海を撮影すると、やたらと船が写り込むが、この日は1隻もいなくて全く幸運であった。

114 播磨灘の夜明け

Daybreak over the Harima Sea

香川県の小豆島にある寒霞渓の四望頂から撮影した播磨灘の夜明けの風景である。小豆島は映画『二十四の瞳』で一躍有名になった瀬戸内海第二の大きな島で面積が153km²もある。その島の中心部の山上に、最高峰の星ヶ城山817mと四方指山の鞍部に奇岩が累々の寒霞渓の渓谷が続く。その中心的展望台が四望頂である。撮影は11月下旬で、太陽は雲間をたどるように上昇していったが、空と海の明暗のバランスが一分の隙もなく絶妙であった。

115 猪谷池の紅葉

Autumn colors at Inotani-ike

寒霞渓という地域はこの小豆島の中央部の東南7km、南北4kmの狭い範囲に限られる。その南端が写真の猪谷池である。この地域に表12景、裏8景計20景の代表的景勝地が特定されているが、この猪谷池は入っていない。私が選ぶならベスト3景に確実に入る。写真下部の紅葉の向こうに池があり、築造されたのは1719年8代将軍吉宗の治世で、以後数百年間35町歩の水田に水を供給し、渇水期には内海町の上水道の水源にもなったそうである。

116 橋杭岩暁天

Hashigui Rocks at dawn

吉野熊野国立公園内、和歌山県串本町にある。大小約40本の岩峰が850mにわたって突っ立っている。橋脚のように見えるところから橋杭岩の名がついたといわれる。岩には総て名がつけられていて、この写真では左から平岩、右の3個がハサミ岩、中央がボウズ岩ともチヨンギリ岩とも呼ばれ、その右背の高いのがオガミ岩又は大オガミ岩、その右細いのが小オガミ岩又はボーズ岩、右端がビシャコ岩である。7月24日から4日間毎朝撮った。

117 紀の松島・ラクダ岩

Camel Rock at Ki-no-Matsushima

和歌山県那智勝浦町にある大小130余の島々が、日本三景の松島に匹敵する意から紀(紀州(和歌山))の松島と呼ばれるようになった。その1島がこのラクダ岩である。写真の撮影位置に野天とバラックで囲われた2個の温泉がある。源泉かけ流しである。道は全くなく勝浦漁港から船で往復するしかない。帰りは指定した時間に船が迎えに来てくれるから、1人で温泉につかってビールでものんびり、この風景を眺めたら最高だろうと思った。

118 鳥取砂丘と日本海

Tottori sand dunes and the Japan Sea

砂丘の頂上を東にたどって行くと、その先端に一部分だけ全く足跡のない自然があった。鳥取砂丘は見渡す限り全面足跡だらけであるから、一部分とはいえ手つかずで無垢の砂丘を発見した時は、新鮮で感動的であった。一直線の水平線を真ん中にして、雲が砂丘に対応して、いい形と重量で海面にせまってきた。部厚い雲に堪えかねて少し雨が落ちてきたようだ。雲と砂丘がシンメトリーな構図になって少し面白い写真になったようである。

119 鳥取砂丘

Tottori sand dunes

鳥取市の日本海側に広がる東西16km、南北2.4km、最大起伏47m。日本三大砂丘の一つ。中国山地の花崗岩が風化し、それが千代川に

よって海に運ばれ、海岸に集まつたものが砂丘になった。撮影は足跡のない風紋の美しい風景をねらって、強風が吹く春と冬に6度出掛けたが、夜が明ける頃には観光客が押し寄せてくるから全くどうにもならない。画面に人間がいないのは、偶然この瞬間だけ人々が画面の外に出てくれたから幸運であった。

120 島後・ローソク岩

Setting sun at Candle Rock, Dogo Island

隠岐諸島で最も大きな島、島後の北西に海から20m突き出した奇岩がある、それがローソク岩。夕日がこの岩塔の頂上に落ちるとローソクに灯がともったように見えるところからその名がついた。この風景を見るために夕方福浦港から観光船が出ている。岩峰の頂点に太陽を合致させる船頭の操船が下手な上に、そのうち操船をほり出して、船内を走り廻ってカメラマンに撮影指導を始めるのであるからこの船頭処置なしで全く閉口した。

121 島前・観音岩日没

Sunset at Kannon Rock, Dozen Island

島前西ノ島の西端に有名な国賀海岸がある。ここも浸食を受けた奇岩や奇景が連なる。この写真の観音岩もその一つで、海側から見ると百濟觀音の姿に似ているところからこの名がついた。これも岩の頂上と夕日を組み合わせることをねらったが、海上とは違って、陸上ではカメラ位置を自由に移動させられない。前方が崖であと5m程度カメラ位置を下げることができなかった。陸側から見るこの観音岩は想像を超えて奇妙な形をしている。

122 展海峰から九十九島

Kujukushima Islands from Cape Tenkai

西海国立公園で最も有名な景観といえば九十九島である。佐世保港外から平戸瀬戸まで25kmの海上に208個の島々が密集している。展望台も南から展海峰、石岳、船越、弓張岳、長串山と5ヶ所にある。これは佐世保港入口のすぐ北に立つ展海峰の展望台から撮った。ここからが密集した最も多くの島々を眺めることができる。撮影は5月8日であったが、新緑がまぶしいほどに鮮やかで、何もかもが再生するような晴れがましい風景に見えた。

123 九十九島逆光

Kujukushima Islands in backlighting

九十九島を眺める展望台で最も有名なのはこの写真を撮影した石岳展望台ではないかと思う。高度が高く島々を俯瞰できるから、立体的に見ることができるのが特徴である。写真の島々は眺望の左端にあって、この島の周辺に太陽が沈むのは11月と12月の2ヶ月に限られる。撮影し

たのは2月3日だが、まだ陽が高い時間の逆光写真だから何とかなった。落日の位置は季節によって意外に広く、右方の島の落日は5月と8月の2ヶ月に限られる。

124 天草・龍仙島落日

Setting sun at Ryusen Island, Amakusa

熊本県天草は大きく上島と下島に分かれる。写真になる被写体は、下島の西海岸と南端の海岸や島々に集中している。写真は下島南端の牛深の港の南西8kmにある龍仙島を撮った。今回4年間にわたって、日の出や日没の太陽を山や高原や海岸で相当量撮ったが、空撮も含めて落日としてはこの写真の太陽が最も美しく写ったようである。赤色や黄色の光芒までもが写って大いに満足した。日本ではスモッグが風景を汚している。残念でならない。

125 青島の日の出

Aoshima Island at sunrise

宮崎県日南海岸国定公園の北端に位置していて、国の特別天然記念物に指定されている。周囲たった1.5km、海拔6mの小さな島の海岸が「鬼の洗濯板」といわれるよう、岩が板状に数百メートルも規則正しく北東から南西に延びている。その岩礁と日の出の太陽である。天気が悪く太陽は雲のすき間から出たから、色づいた雲の反射を受け、海面が、赤や紫色や黄色のにぎやかな色彩に色どられて、すばらしい「鬼の洗濯板」の日の出になった。

126 青島・浸食された岩

Eroded rocks on Aoshima Island

硬さの違う砂岩と泥岩が重なった層による岩盤が、1千万年近くの昔このあたり一面を覆っていたそうである。それが長年月の間に浸食されて、柔らかい層が洗い流されて獨得の波状岩が形成されたという。それが今日干潮時には、沖合に100m以上も続く壮大な奇観を呈するまでに至った。その自然の営みの凄さを思うと、私などこの風景に言葉を失う。この纖細にわたる造形は人間など天才も及びもつかない。人智など完全に超えている。

127 西表島・南風見田浜

Haemida Beach, Iriomote Island

沖縄のほぼ西の端といえば日本国の中の西の端で、目と鼻の先に台湾がある西表島。この島の南岸に南風見田浜がある。島を半周する県道215号線の終点から4km先の岩礁の中に、波浪に浸食され彫刻された独自の造形をした特異な岩が点在している。自然の営みは人間の知恵などはるかに超えて凄いと思う。ただこの彫刻された岩礁は4～50mの範囲で規模が極めて小さく、今に心ない人間によって踏み荒されて、破

壊される事態を恐れている。

128 石垣島・底地海岸の落日

Sun sets on Sukuji Beach, Ishigaki Island

石垣島の北西部に崎枝湾がある。その上部が底地海岸。ここはビーチであるから砂浜で海水浴場と思われるが、撮影時、7月末の暑い盛りであるにもかかわらず人間が一人もいなかった。写真的太陽はその輝き具合から反射的に日の出と思うだろうが沖縄の日没である。それ程スモッグがなく空気が透き通っている。背後は密林状になっていて、360度人気もなければ人工物もない全き自然の中で、水平線に沈む太陽を見ていると人間が生き返る。

129 永遠の日本の夜明け

Timeless Japan at daybreak

沖縄県石垣島の東岸に白保海岸がある。このあたりは九州や本州と違ってスモッグがないから、まだ薄明の空を撮っても、何もかもがはっきり写る。中天は真黒で星が煌々と輝いているが、東の空は地平線のオレンジ色から赤、紫、青と中天の黒まで色彩が肉眼ではっきり識別できる。画面上部中央の星は金星、右方上下に3個並んでいるのがオリオン座の三つ星。政治家や官僚がロクでなしでも、日本国は今に莊嚴に鮮烈に夜が明けるのだ。

130 永遠の日本の旭日

Timeless Japan at sunrise

八重山列島は西表石垣国立公園の石垣島東岸から、日の出の太陽を撮った。太陽の輝きが強烈で輪郭が判らないほど、周囲まで真白に調子が飛んでなくなることを心配するほどの凄い光であった。写真展の最後はこれまで夕日か月で締めくくったが、今回はあえて日の出の太陽にした。日本の政治がどこまで堕落しようと、官僚が腐り果てても、この壯麗莊厳で崇高な自然がある限り必ずや日本国は再生されて、再び旭日が天高く輝くのである。

白川義員写真展

第一期 永遠の日本 令和2年3月20日 [金・祝] - 4月19日 [日]

主催：東京都、公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都写真美術館

協賛：凸版印刷株式会社

協力：株式会社小学館

作品は全て白川義員の所蔵である。

Shirakawa Yoshikazu Exhibition

The first part: *Eternal Japan*, Friday, March 20 to Sunday, April 19, 2020

BIF Exhibition Gallery, Tokyo Photographic Art Museum

Organized by Tokyo Metropolitan Government/

Tokyo Metropolitan Foundation for History and Culture, Tokyo Photographic Art Museum

Sponsored by Toppan Printing Co., Ltd.

Supported by Shogakukan Inc.

All works belong to Shirakawa Yoshikazu.